活火山 桜白

近年の噴火活動過去の大規模噴火と

を開いています。 一年)、安永噴火(1779年)、大正 1年)、安永噴火(1779年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永噴火(1794年)、大正 1年)、安永 1年)、安永

す。

立は行うに噴火し、火山活動が徐々
をすぶりに噴火し、火山活動が徐々
を重なる爆発的噴火で、火口の大き
では約5年間で約2・5倍の大きさ
では、昭和火口が平成18年に

いると言われています。 失ったマグマの約9割が蓄積されて地下では、大正3年の大規模噴火であるとされている、姶良カルデラのまた、桜島の主なマグマ溜まりがまた、桜島の主なマグマ溜まりが

ります。 今後の噴火活動への警戒が必要とな過去の活動などから推測すると、

桜島の特徴的な形

桜島は北岳と南岳という二つの山 と見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別 を見ると同じ山とは思えないほど、別

火山災害現象

火山の噴火の際、まず噴火時に岩の火山の噴火の際、まず噴火時に岩の水山の・

象が見られます。

家が見られます。

家が見られます。

家が見られます。

家が見られます。

また、噴火後まもなく岩石、火山灰まか。







退避舎・避難!

消防、自主防災組織など1

桜島豆知識

桜島の植生

火山が噴火し、溶岩が流出するとその溶岩の通り 道にある植物は全滅しますが、長い年月をかけて復 活します。桜島はその植生遷移を観察するのにとて も適した場所です。何もない溶岩の上にはまずコケ 類、地衣類 (菌類と藻類の共生生物) と呼ばれる植 物が生まれます。これらが成長し、枯れることを繰り 返すことで硬い溶岩上に徐々に土ができてきます。 その後、土の上に草が生え、枯れることを繰り返し、 溶岩上に土や養分が堆積していくことで多くの植物 が育つようになっていきます。まず日なたに強い植 物が、次に日陰を好む植物が育ち、溶岩流出後200 年以上経過すると、植生に変化の少ない安定した森 ができあがります。桜島は、さまざまな時代にあら ゆる方向へ溶岩を流しました。そのため、桜島を一 周するだけで200年分以上の植生遷移の過程をみ ることができるのです。



溶岩の上に力強く植物が生長します

桜島の恵み

- 世界一 小さい桜島小みかん 大きい桜島ダイコン
- ・深海を持つ内湾 錦江湾
- ・マグマの熱によって温められた 温泉
- ・シラスを活用したさまざまな製品



活動が活発な桜島。火山の噴火から住民を守るために昭和44年度からら住民を守るために昭和44年度からるためのもので、現在では、桜島島内るためのもので、現在では、桜島島内るためのもので、現在では、桜島島内に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2棟、避難港20に退避壕32基、退避舎2枚、避難地が

施しています。平成24年度は警察、

えています



研究と観測体制

世界トップレベルの噴火予知研究と24時間の観測体制を

ただ、火山の大規模噴火は常に形

京都大学防災研究所火山活動研究センター

井口正人教授

高いと言えます。 と今後100年の間に大正噴火級の 周年にしなければなりません。桜島の の100年を考える大正噴火100 大規模噴火が起こる可能性は極めて 活動周期、マグマの動きなどから見る しては一つの通過点であり、これから えますが、これは桜島の火山活動と 桜島は大正噴火から100年を迎

が鹿児島県の強い要望を受けて設立 想定することが重要となります。 ることは難しいので、あらゆる状況を の山腹から溶岩が流出するか予測す ことは必要ですが、いざ噴火すればど 火を教訓にし、大規模噴火に備える 噴火に比べ規模は大きかったけれど危 島の安永噴火などそれまでの大規模 うことはありません。大正噴火は、桜 態が異なり、同じように噴火するとい 状況の期間は短いものでした。大正噴 機的状況、つまり生命の危険がある 京都大学の火山活動研究センター

されてから観測・研究を重ねてきた

兆をとらえることができます。 の中にマグマが多量に動くかどうかが いるのは火口に向かうルートが小さい す。現在、小規模の噴火を繰り返して され、噴火していることがわかっていま 溜りから桜島の地下にマグマが供給 前に起こった大規模噴火によりでき 動きを常に観測しており、噴火の前 重要となります。そして、そのマグマの ことが原因です。大規模噴火は桜島 深さ10キロメートル付近にあるマグマ た錦江湾を形成する姶良カルデラの 結果、桜島火山は約2万9000年

要になります す。そのためには現在の火山噴火予 じて移転させるためにあるといえま ではなく、生活するための機能を先ん は生活を守ることです。避難するだけ 命を守ることです。安全な場所まで 知をより確立させたものにし、観測を る必要があります。そして、もう一つ 避難を完了させるために警報を発す 途絶えることなく行っていくことが必 火山噴火予知の目的の一つは人の

気象庁鹿児島地方気象台 白土正明防災調整官

行っています。 観測に基づくさまざまな情報発信を て噴火警報を始めとし2時間体制での 鹿児島地方気象台では、桜島につい

り噴火の可能性を判断しています。 計データと合わせて観測することによ 把握しています。噴火の前には火山性地 や傾斜計などの動きを観測することで の変化を火山の周辺に設置したGPS 張・収縮するなどの変化が生じます。そ 地下のマグマの活動に伴って、地殻が膨 現地調査も行っています。火山地域では ラや地震計、GPS、空振計、傾斜計な て、火山ガスの放出量を計測するなどの 送り、リアルタイムで行っています。そし どを設置して、気象台まで観測データを 震が多発し、火山性地震の震源や震幅 (大きさ)、周期が変化しますので、地震 火山の監視は、火山の周辺に遠望カメ

19年12月から、警戒の度合いを5段階で示 住民に呼びかけるための情報として、平成 在の桜島の噴火警戒レベルは3(入山規制 した噴火警戒レベルを発表しています。現 気象庁では、火山活動に対する警戒を

> は発生すると予想されるレベルです。想定 が想定される場合、噴火警戒レベルは4に れ、居住地域まで影響が及ぶ噴火の発生 住民にどのような影響があるかで決めら 流が到達するなどです。噴火警戒レベルは キロメートルの範囲に噴石が飛散し、火砕 重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるい される火山現象としては、火口から概ね2 レベル)です。これは居住地域の近くまで 住地域からの避難が必要になります。 上がり、噴火警戒レベル5では、危険な居

明示した降灰予報を目指しています。 けでなく降灰の量も含めて、市町村を ミングや内容を改善する検討を行って 現在気象庁では、降灰予報の発表タイ す。降灰予報の内容は、降灰が予想され 達した場合、降灰予報を発表していま 口上おおむね3000メートル以上に おり、今後は降灰が予想される地域だ る地域を図と文章で示した情報です。 また、桜島では、噴火時の火山灰が火

する住民のためにも、より正確で身近 な情報を発信していきたいと思います。 活火山である桜島のすぐ近くで生活

民噴火100周

~防災意識を高め、大正噴火の教訓を後世に伝える~

火山を見直す

多くの県民の方々が火山防災に 関する市民フォーラムや、イベントに 参加することで防災意識や火山そ のものへの関心を高め、さまざまな 角度から火山をより身近なものとし て感じてもらえるように取り組みま す。

教訓を伝える

桜島は数々の大規模噴火を繰り 返しています。被害を繰り返さない ためにも大正噴火の教訓を、次の世 代に伝えていくことが必要です。

世界から学ぶ

平成25年7月に鹿児島市で国際火山 学地球内部化学協会2013年学術総会 (英略IAVCEI2013)が開催されます。

この総会には、国内外の著名な火山 学者が多数参加することから、活火山 桜島に関する研究などが進み、本県の 防災体制の推進につながることが期待 されます。

火山を活かす

桜島の火山灰などを活用した商品を 製造・販売している県内企業の展示発 表会の開催や桜島魅力体験イベントな ど桜島・火山資源の恵みをPRします。

でを火山マンスとしてさまざまなイベントを実施します 年事業実行委員会では、今年度4つのキーワードと7月から8月ま 鹿児島県や鹿児島市などで構成される桜島大正噴火100周

し備えることが大事です

ワード

る可能性もあります。火山の特性を知り、日頃から火山噴火に対 は現在も活発に活動している火山です。今後も同様の噴火が起こ の大噴火とそれに伴う地震では、甚大な被害が発生しました。桜島 平成26年1月に桜島大正噴火から100周年を迎えます。大正

「イベントのご案内]

▶桜島・火山防災学習スタンプラリー

日時: 平成25年5月1日(水)~11月30日(土)

場所:黒神埋没鳥居など県内9カ所

黒神埋没鳥居や桜島ビジターセンターなど桜 鳥噴火に関するスポットをめぐる県民・市民参 加型のイベントです。チェックポイントでスタン プを集めた方の中から抽選で、火山にちなんだ 商品のプレゼントもあります。



●火山シンポジウム

日時: 平成25年7月21日(日) 場所:鹿児島市民文化ホール

IAVCEI2013に参加する世界的に著名な火山学者の方を 招聘し、海外の火山の研究成果の講演などを交え、県民・市 民に「火山防災」の重要性について理解を深めてもらうため のシンポジウムです。桜島大正噴火のパネル展示なども合わ せて行われます。

●ふれあい火山フェア

日時: 平成25年7月20日(土)~21日(日)

場所:かごしま県民交流センター

IAVCEI2013 の開催会場にて、火山防災の関心を高める ため、「火山を知る」や「火山と生きる」をテーマにした展示な どを行います。また、桜島・火山の恵みミニ物産展やキッチ ン火山教室なども開催されます。

その他にも、キッズ火山フェスタ、桜島大正噴火 100 周年企画展、桜島・火山防災学習パネル展、巡回防災寺子屋などさま ざまな防災啓発事業を予定しています。その他のイベントなど詳細につきましては、公式ホームページにてご確認ください。

[桜島大正噴火100周年公式ホームページ] http://sakurajima100.org/ 桜島100

検 索